

2002

## 郷土愛を深めるウォーキングマップ

A Historical and Cultural Walking Map of Oyamagaoka

AD03 井上 正義  
指導教員 山館 順

### 1. 研究目的

現代の日本人は日々の生活に追われ、年々、自分の居住している地域とのつながりが薄くなってきている。実体験でもあるが、ベッドタウンに住んでいる人間が、地域に対する意識を考えたとき、新しいことやものばかりに目が行きがちで、過去にその土地が歩んだ歴史に関心が行かない。郷土愛を深めるためには、地域の歴史を認識させ、地域を活性化させることが重要である。「歴史の価値」を紹介し、太古より伝わる日本最古の歌集である万葉集の「歌」を通じて、この地に育まれた文化と歴史を感じてもらうことが目的である。

そこで、典型的なベッドタウンである小山ヶ丘と、隣接する史跡の多い鑑水を選んだ。

### 2. 調査と分析

小山ヶ丘は東京都町田市北西部の地域であり、多摩ニュータウンの最西端に位置する。マンションや大型量販商業施設が建ち並んでおり、開発地であるため外から移住してきた層が多く、核家族化が進み、完全にベッドタウン化している。白山公園の「田端環状積石遺構」など魅力的な遺跡が存在するが、地域の歴史に関する関心は低い。

鑑水は八王子市南部の地域で由木盆地の最奥に位置し、丘陵に囲まれている。ニュータウンの開発が近くまで迫ってきているがほぼ開発されておらず、未整備の土地も多いが、古い家は少なく、比較的新しい家やマンションが多い。「絹の道」や「小泉家屋敷」などがある。小山ヶ丘から徒歩でも遠くない場所なので、社会人教育向けの対象として紹介できる。

この地は都県境、市境であるため境界が錯綜していることもあり、地域のイメージを捉えにくい。

歌の事例として多摩の横山にまつわる歌を中心に万葉集から5つ選んだ。従来から有名な多摩の横山の歌「赤駒を……」以外では、万葉集20巻の「妹をこそ……」の歌碑が御殿峠の軽費老人ホーム内にあることが分かった。

### 3. コンセプトの立案

「地元を知る」

歴史巡りはシニア向けのものという従来の傾向に対して、理工系高専生による歴史と文化への新鮮な眼差しが独自性となる。

自治体の枠を横断し、町田市、八王子市の紹介をすることや、「多摩の横山」のみ取り上げられがちな、この地域で、ほぼ知られていない万葉歌に着目し、「横山辺ろ」を掘り起こしたことがオリジナリティである。

小山ヶ丘や鑑水地域に住んでいるシニア世代に、多摩の横山にまつわる歌と共に地域の歴史について「実際に歩いて」学習してもらい郷土愛を深める。そのため手持ちできるパンフレットの形状にした。

### 4. デザイン展開

サイズは蛇腹折り縦210mm横600mm。

#### ・万葉集側

導入として、万葉集の説明と万葉仮名の紹介。小山ヶ丘、鑑水が属する多摩の横山に伝わる歌の解説。色は歌のイメージに合わせ、日本の伝統色とし、シンプルに構成し、可読性を意識した。

#### ・ウォークマップ側

散策するための地図を大きく記載。公園や目印になる建物の情報を載せ現在地を分かりやすく。2つの散策ルートの紹介。歴史的建造物や遺跡、資料館を画像と共に解説。

### 5. 完成図



### 6. 結論

実際に地元の方に使用してもらい、地元の文化や歴史、歌について知ってもらうことができた。また、既に知っていた人も再認識できる良い機会となった。取り上げるスポットが少ないとの声もあり、パンフレットのバランス調整を今後の課題としたい。

### 文献

- [1] 石井義長、『武蔵国多摩郡と由木の里の昔語り』、揺籃社、2013年
- [2] 多田一臣、『万葉集全解5』、筑摩書房、2010年
- [3] 多田一臣、『万葉集全解7』、筑摩書房、2010年
- [4] 安島喜一のホームページ(歴史探訪)  
<http://www.asahi-net.or.jp/~hm9k-ajm/>